

今のような経済低迷期になると、メディアがよく取り上げるのが、組織マネジメントの研究者ピーター・ドラッカー(1909～2005年)と幕末に活躍した坂本竜馬(1835～67年)だ。

なぜ、こうした現象が起きているのだろう。まず、オーストリア出身の経営学者に



森川 富昭氏(もりかわ

・とみあき)マサチューセッツ工科大とハー

バード大でMOT(技術経営)を受講し、神戸大学でMBA(経営学修士)を取得。現在、徳島大病院情報センター部長・病院教授。専門は医療情報学と医療経営学。40歳。徳島市在住。

① 元氣をつくる マネジメント力

竜馬とドラッカー

して社会思想家でもあるドモ、同じ組織の一員として生まれている。

ドラッカーについて。物価企業理念を共有した上でチームワークを発揮してもらい、新しい商品・サービスを創出する。龍馬には「ガラバゴス現象」を打ち破り、これが給与削減、さらに消費(新)を生み出す必要があり、消費者の購買意欲減少、という。いかに組織を再構成し、マネージメントしながら社員モチベーションを上げ、性にあふれた新規開拓市場をパイラルである。

経済学者チャン・キムとレネ・モボルニが2005年に唱え、注目を浴びている経営戦略概念である。幕末、攘夷にこだわる多くの志士の中で、龍馬は日本、ガラバゴス化に異を唱えていることと同じなのだ。徳島の企業関係者の皆さん、ピーター・ドラッカー、こうした龍馬の先見の明と実行しようとする気概が閉塞感漂う今の世に受け

こうした時代に企業が考へ、収益を上げるのか。ええるのが、組織構造の見直し。その答えを見つけようと、した。できるだけスリム化ドラッカーの書籍が読まれ、内部統制を確立する必要がある。人件費は大きな支出の一つなので多くの企業がドラッカーの「マネジメント」を読んだら、社内には動揺が広がる。しかし、厳しい状況下でユニークなベストセラーも「ブルーオーシャン」とは

理由ではないだろうか。ところで「脱ガラバゴス」「ブルーオーシャン」は、徳島県民にとっても重要な概念である。例えば、徳島に参入する大型店舗を「黒船」として、川富昭部長が解説する。

「ガラバゴス化」とは国内でしか通用しないサービスや商品(例えば高度化しすぎた携帯電話)であふれた現在の日本を評する言葉。え、「攘夷」を断行しようとするのではなく、「徳島の